



Kodak

i1400 シリーズスキャナー

ISISドライバ用スキャンセットアップガイド

ISIS ドライバ用スキャンセットアップガイド

目次

[Scan Validation Tool] (スキャンバリデーションツール) の起動	2
ISIS ドライバの使用	3
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス	4
ISIS ドライバメインウィンドウ	5
[メイン] タブ	6
[レイアウト] タブ	9
[スキャン領域] ダイアログボックス	11
[イメージ処理] タブ	12
[スキャナ] タブ	14
[カラーの自動検知] タブ	16
[調整] タブ	18
[ドロップアウト] タブ	20
[ブランクイメージ検出] タブ	21
[インプリンタ] タブ	22
[ログ] タブ	24
[バージョン情報] タブ	24

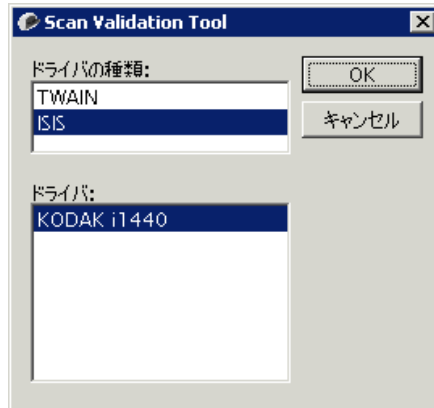
コダック i1400 シリーズスキャナーではイメージ処理機能により高い画質のスキャン画像を取得できます。

*イメージ処理*とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

本ガイドには ISIS ドライバの使用手順やスキャナーの機能についての説明が含まれます。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション (コダック キャプチャソフトウェアなど) のユーザインターフェースでも選択できます。

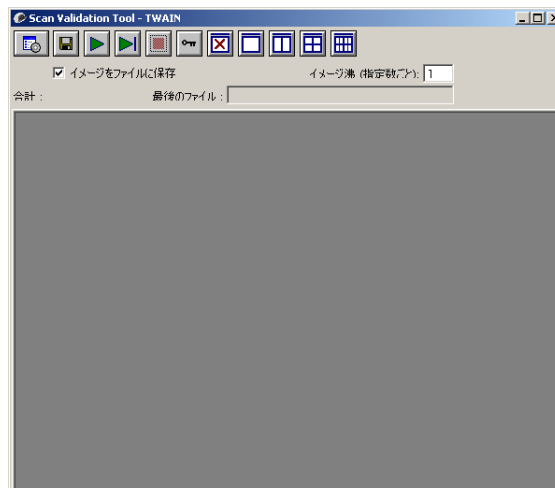
[Scan Validation Tool] の起動


1. [スタート]>[プログラム]>[コダック]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. [ドライバの種類] で [ISIS] を選択し、[ドライバ] で [Kodak Scanner i14XX] を選択します。[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。

注： [Scan Validation Tool] ダイアログボックス上のアイコンの説明については本書で後述の「Scan Validation Tool ダイアログボックス」のセクションを参照してください。



3. [セットアップ] アイコンをクリックします 。[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



4. [ISIS] をクリックして [メイン] タブを表示します。

ISIS ドライバの使用

コダック i1400 シリーズスキャナーは EMC Captiva が製造、所有する ISIS ドライバによって様々なイメージファイルを提供します。

数多くのスキャンアプリケーションは ISIS ドライバをサポートしており、アプリケーションとのインターフェースとして使用されます。ISIS ドライバは、ご使用のスキャナーアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

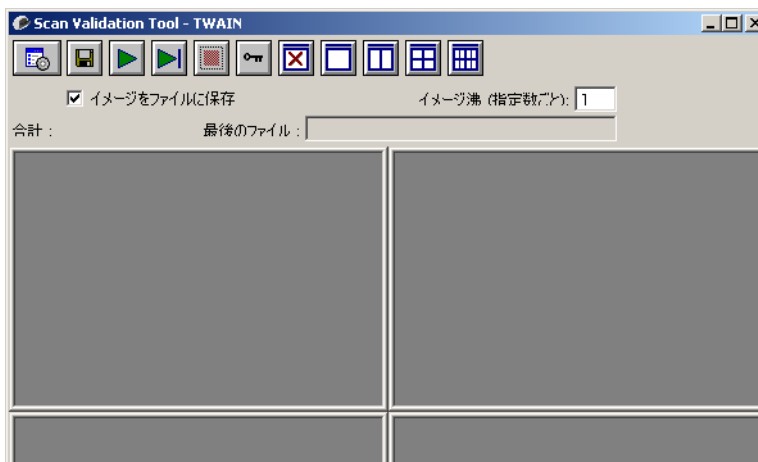
ここでは、ISIS ドライバメインウィンドウの各タブにあるオプションの説明と、設定方法について説明します。

このマニュアルでは、コダック i1405、i1420、i1440 シリーズスキャナーで表示されるウィンドウを使っています。コダック i1410 スキャナーを使用している場合は、片面スキャン用のオプションしか使用できません。

ISIS ドライバを表示するには、このマニュアルで前述した「Scan Validation Tool の起動」を参照してください。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



[ツールバー] ボタン



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインターフェイスを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[イメージをファイルに保存] を選択した場合にのみ利用できます。



スキャン開始 — 入力トレイの原稿のスキャンを開始します。



1ページスキャン — 1ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1 画像) — 1 回に 1 イメージを表示します。



表示モード (2 画像) — 1 回に 2 イメージを表示します。



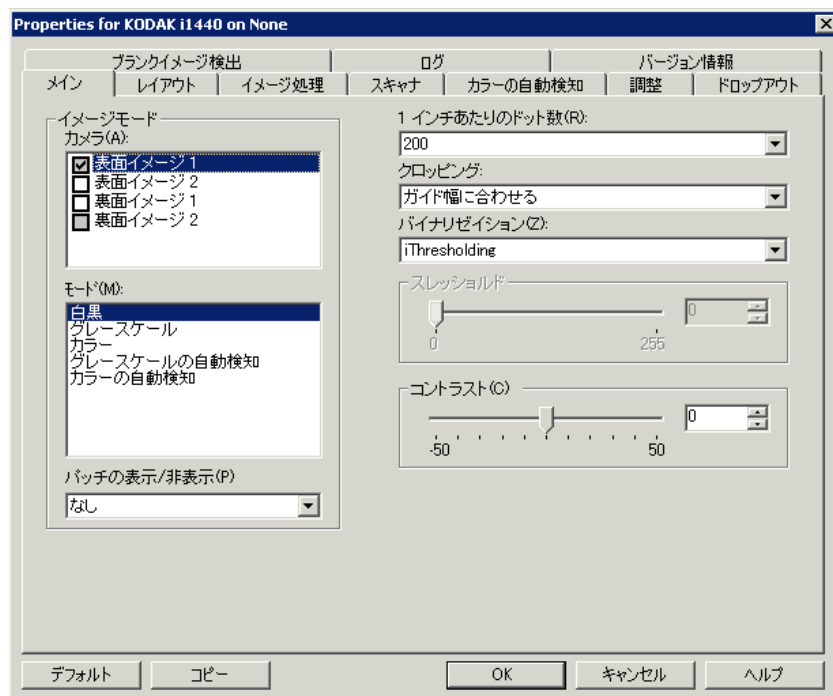
表示モード (4 画像) — 1 回に 4 イメージを表示します。



表示モード (8 画像) — 1 回に 8 イメージを表示します。

ISIS ドライバメイン ウィンドウ

ISIS ドライバメインウィンドウには、複数のタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。



ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます：
デフォルト — [デフォルト] を選択すると、設定値がデフォルトの状態に戻ります。

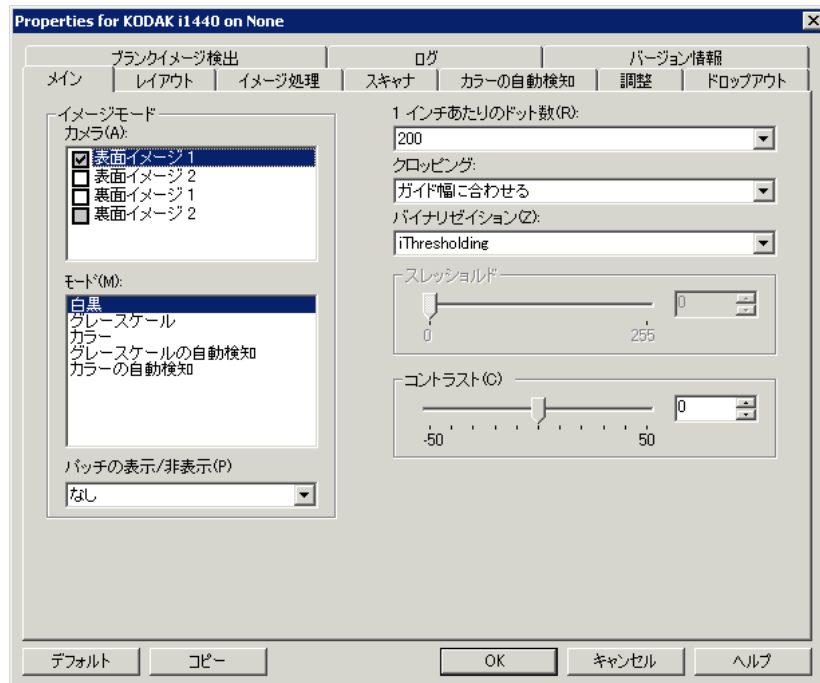
【コピー】 — 両面原稿をスキャンする場合にのみ使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容をもう一方の面にコピーすることができます。たとえば、[表面イメージ #1] を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を [裏面イメージ #1] にコピーできます。

【OK】 — すべてのタブ上で設定された値を保存します。

【キャンセル】 — 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。

[メイン]タブ

[メイン]タブには、以下のオプションがあります。



イメージモード

[カメラ]— イメージでスキャン可能な面（表面および裏面）が一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ#1]**、**[表面イメージ#2]**、**[裏面イメージ#1]**、**[裏面イメージ#2]**があります。

コダック スキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できません。白黒イメージに適用される設定や、カラー/グレースケールイメージに適用される設定があります。適切なカメラとイメージモードを選択して、スキャナーの出力を制御します。

モード

- **白黒**：白と黒の 2 階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
- **[グレースケール]**：グレースケールイメージを作成する場合に選択します。
- **[カラー]**：イメージをカラーにする場合に選択します。
- **グレースケールの自動検知**：カラーの自動検知をグレースケール用に設定します。詳細は、「[カラーの自動検知]タブ」を参照してください。
- **カラーの自動検知**：カラーでカラーの自動検知を設定します。詳細は、「[カラーの自動検知]タブ」を参照してください。

[トグルパッチ]— トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。以下のオプションがあります：

- **[なし]**：パッチは使用されません。
- **[片面]**：パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **[両面]**：パッチは両面で認識されます。

注：カラーパッチ機能を搭載しないスキャナーもあります。ご了承ください。

1 インチあたりのドット数— スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を大きくすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度の値はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは200 dpi です。解像度は75、100、150、200、240、300、400、600 dpi です。

[クロッピング]— スキャンされる原稿の一部をキャプチャできます。クロッピングオプションは、カラー／グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー／グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読み取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して1 つだけ適用可能です。

- **ガイド幅に合わせる**：（同じサイズの前稿をまとめてスキャンする場合）イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる]クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトと組み合わせ、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央揃えを使用しない場合は、[レイアウト]タブを選択してスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、この章の後半の「[レイアウト]タブ」のセクションを参照してください。
- **自動**：異なる原稿サイズに対してクロッピングウィンドウを画像の縁に合わせてダイナミックに調整します。
- **自動 — 高画質**：イメージの端に黒の外枠がある場合、それを除去します。この場合、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **原稿に合わせる**：（ゾーンプロセッシング）：（同一サイズの複数ページの原稿に使用）— ゾーンプロセッシングは、原稿の左上コーナーに対応して配置される浮動固定クロップウィンドウ（ゾーン）です。そのエリアをカラー／グレースケールで処理するか白黒で処理するか選択することができます（白黒とカラー／グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます）。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

このオプションは、ある部分をカラー／グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングとともに使用します。写真、署名、エンボス（浮き出し）、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です（対象の小さい部分をカラー／グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など）。ゾーンを定義するには、[レイアウト]タブを選択します。

コダック i1440 スキャナー専用：

- **写真**：スキャナーはドキュメント上の写真を検知し、写真のみのイメージを返します。スキャナーが複数の写真をドキュメント上に検知した場合でも、返されるイメージは 1 つのみです。写真を選択すると、ドキュメント全体で写真が検知されます。
- **対象領域付き写真**：このオプションは（スキャン領域ダイアログボックスで指定された）ドキュメントの一部のみから写真を検知するというを除き、上記の写真と同様です。
- **長尺原稿**：[スキャン領域] ダイアログボックスで指定する領域に基づき、ドキュメントが別々のイメージに分割されます。[スキャン領域]の幅はドキュメントいっぱい、高さは約 297 mm（11 インチ）にすることを勧めます。

[バイナリゼーション]— これらのオプションは、グレースケールイメージに適用され、白黒のイメージを出力します。バックグラウンドカラーまたはシェーディングが異なっても、さらにフォアグラウンド情報がカラー品質と暗さで異なっても、バックグラウンド情報からフォアグラウンド情報を区別できるところに特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャン済み画像を得ることができます。

- **iThresholding**：高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値（スレッシュホールド）が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿（文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など）をスキャンすることができ、原稿を仕分けする手間を省くことができます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト]のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)**：白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用されます。[固定処理 (FP)] を選択した場合は、[明度]のみ調整可能です。
- **アダプティブスレッシュホールド (ATP)**：イメージの前景情報（文字、グラフィック、線など）を背景情報（白または白以外の用紙の背景）と区別します。アダプティブスレッシュホールドを使用する場合は、[明るさ]と[コントラスト]を調節できます。

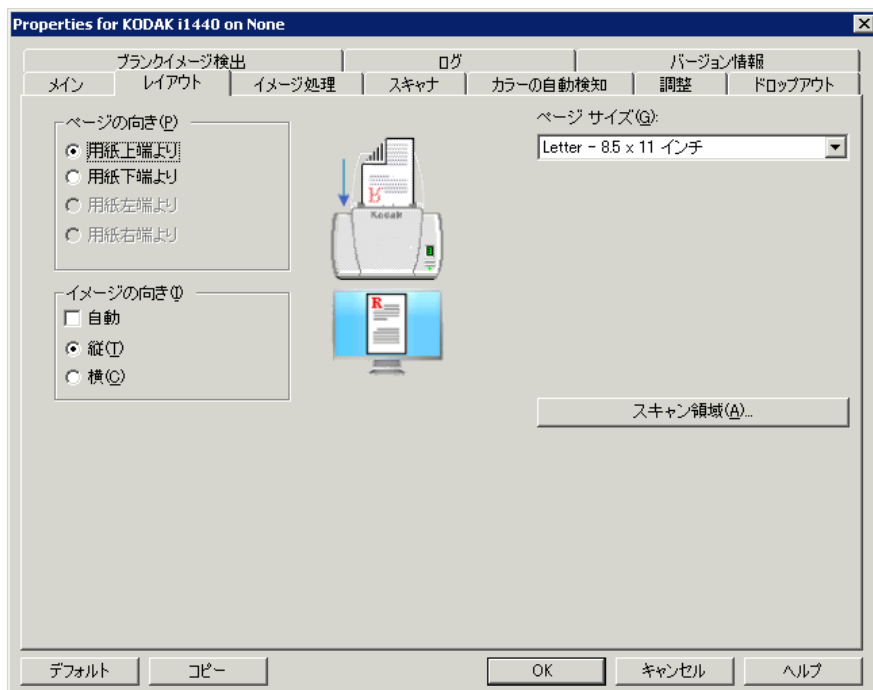
スレッシュホールド— カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。スライダを使って、0～255の範囲の値を設定してください。デフォルトは 90 です。

コントラスト 白黒の明暗の差を調整し、イメージをシャープ、またはソフトにします。

[コントラスト]を低く設定すると、白黒の明暗の差が小さくなり、ソフトなイメージになります。[コントラスト]を高く設定すると、白黒の明暗の差が大きくなり、シャープなイメージになります。-50～50までの値を選択します。デフォルト値は 50 です。

[レイアウト]タブ

[レイアウト]タブには、以下のオプションがあります。



ページの向き — スキャナーに配置する原稿の向きを選択することができます。[用紙上端より]、[用紙下端より]、[用紙左端より]、[用紙右端より]を選択できます。コダック i1400 シリーズスキャナーを使用している場合は[用紙上端より]を選択します。

イメージの向き

- **自動**：[自動]を選択した場合、[ページ方向]オプションは利用できません。
- **縦向き**：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横向き**：横長の向きにイメージを表示します。

[ページサイズ] — スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。

[スキャン領域] — [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが[ガイド幅に合わせる]または[原稿に合わせる]に設定されている場合にのみ利用できます。詳細については、後述の「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

表面と裏面のイメージを組み合わせる - 主に、表面と裏面のそれぞれに一つずつ別のイメージを作成する書類のために使用されます。このオプションをオンにすると、1つのイメージに原稿の表面と裏面の両方を表示します。選択肢は以下のとおりです。

表面

裏面

裏面

表面

表面を上：表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。

表面を下：裏面のイメージが表面のイメージの上に配置されます。

表面

裏面

裏面

表面

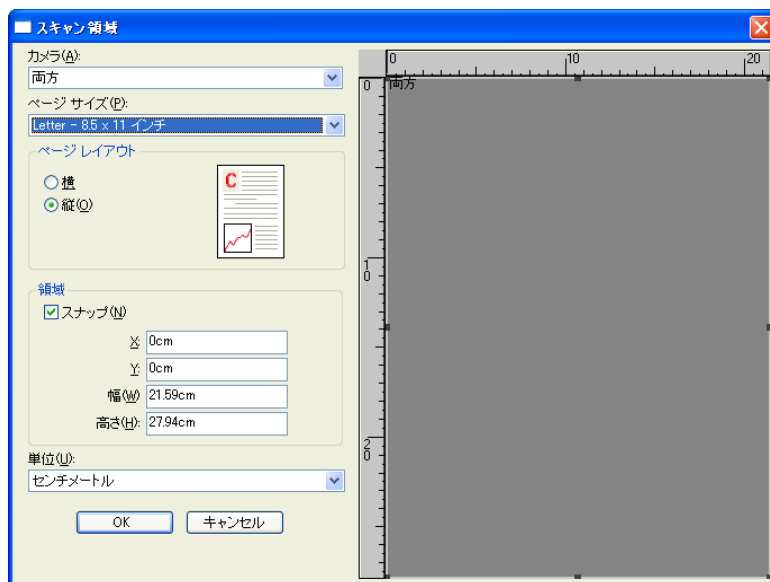
表面を左：表面のイメージが裏面のイメージの左に配置されます。

表面が右：裏面のイメージが表面のイメージの左に配置されます。

[スキャン領域] ダイアログボックス

[スキャン領域] ダイアログボックスを使用して、コンピュータへ送信される画像データの量を定義できます。

注：選択したクロッピングオプション（[ガイド幅に合わせる] または [ドキュメントに合わせる]）に基づき、[表面イメージ #1]、[表面イメージ #2]などをハイライトして、定義する面とイメージを選択します。すべてのカメラ選択項目に対して定義されたスキャン領域は、それぞれ独立しています。



[ページサイズ] — スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。

注：[用紙サイズ] と [ページレイアウト] は、[レイアウト] タブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- 縦：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- 横：横長の向きにイメージを表示します。

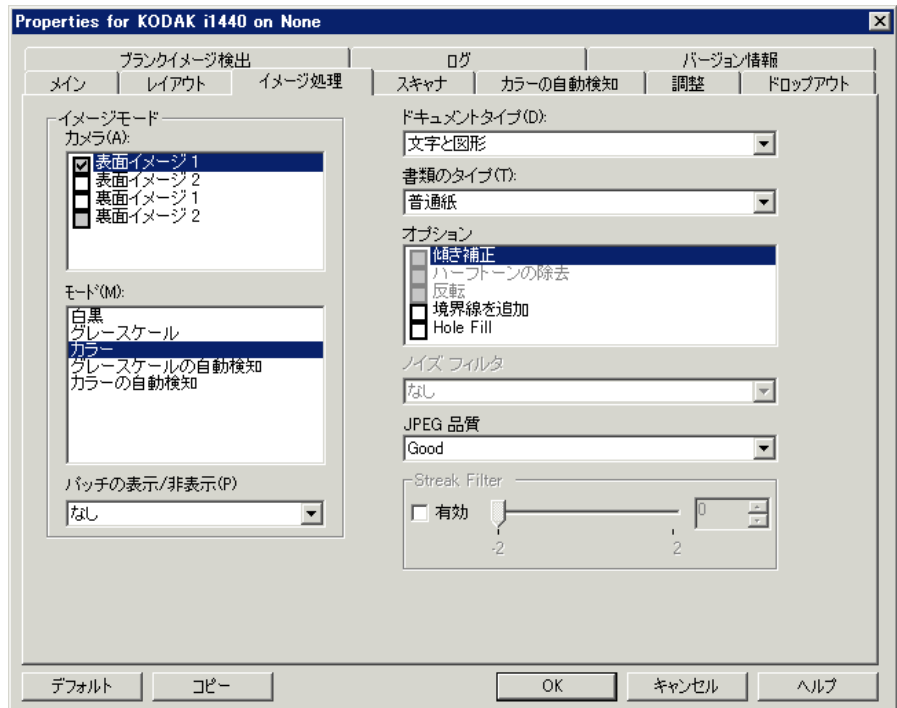
領域

- スナップ — プレビューエリアの領域を 1/8 インチ単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、ピクセルモードでは無効になります。
- X：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- Y：スキャナの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- 幅：スキャン領域の幅を設定します。
- 高さ：スキャン領域の高さを設定します。

単位 — 領域を定義する単位を [ピクセル]、[インチ]、または [センチメートル] から選択します。

[イメージ処理] タブ

[イメージ処理] タブには、前述のイメージモード、およびモード情報に関するオプションがあります。詳細については、この章の前半にある「[メイン] タブ」の項を参照してください。



ドキュメントタイプ

- **写真**：原稿は主に写真で構成されます。
- **テキスト**：文字原稿の場合に選択します。
- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文書と写真が混在している原稿の場合に選択します。

書類のタイプ— スキャンする用紙の素材や重量に基づいて、いずれかのオプションを選択します。利用できるオプションは、[普通紙]、[薄紙]、[光沢紙]、[カード紙]、[雑誌]です。

オプション

- **[傾き補正]**— 原稿の先端の +/-0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。[ガイド幅に合わせる] または [ドキュメントに合わせる] オプションが選択されている場合、このオプションは利用できません。

注： データの損失を防ぐために、原稿の四隅がイメージ搬送路の中に収まっていることを確認してください。

- **[ハーフトーンの除去]**— ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージの質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。

- **[反転]** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションをオンにします。

注： お使いのアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションを変更することができます。

- **[境界線を追加]** — イメージの上下左右に、外枠を追加します。
- **パンチ穴除去** — ドキュメントの端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、次のとおりです。円、長方形、および不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーからドキュメントを取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある）。

ノイズフィルタ

- (なし)
- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **[マジヨリティールール]**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルのマジヨリティが白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

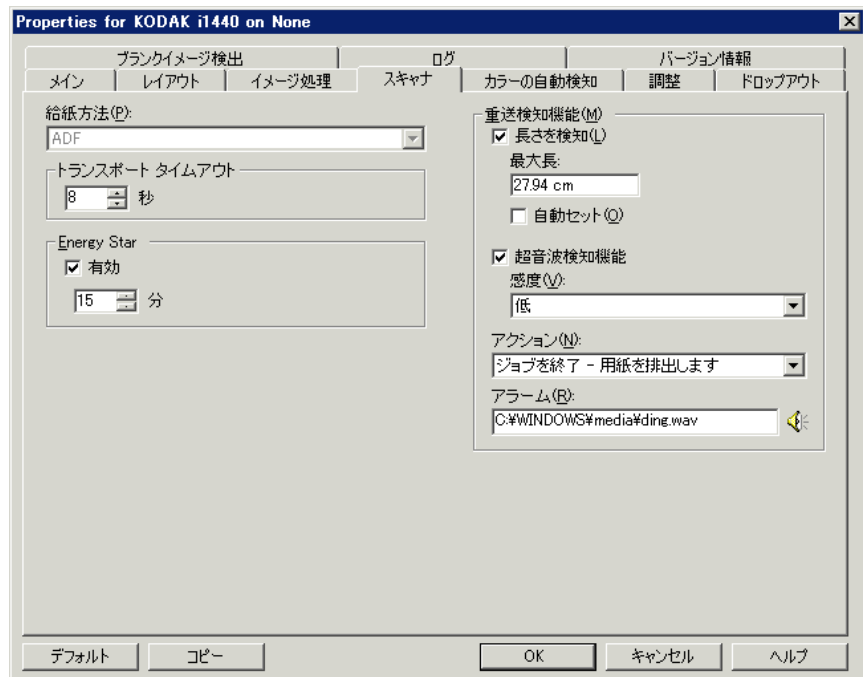
JPEG 品質 — JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、イメージの品質は良いです。
- **最高**：最小圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元のドキュメントの一部ではないのに、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚染物質（例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。

[スキャナ] タブ

[スキャナ] タブには、以下のオプションがあります。



給紙方法

注：フラットベッド関連オプションは、スキャナにコダック i1400 シリーズ A3 フラットベッドアクセサリを取り付けている場合にのみ利用できます。

- **ADF**：入力トレイにセットした原稿をスキャンする場合に選択します。
- **フラットベッド**：フラットベッドを使って原稿をスキャンする場合に選択します。
- **[ADF/Flatbed] (ADF/ フラットベッド)**：選択されると、スキャナーはスキャンされる原稿が ADF かフラットベッドのいずれにあるかを検出します。

トランスポートタイムアウト — 最後の原稿が転送されてからトランスポートタイムアウトが実行されるまでの時間を設定します。時間遅延設定を **1 ~ 300** 秒の範囲で指定します。

エナジースター — スキャナで操作が行われていないときにアイドル状態に移行するまでの時間を設定できます。選択できる解像度は、**0 ~ 60** 分です。デフォルトは 15 分です。

特殊ドキュメント処理 — イメージが切れたり紙詰まりを起こすことがある不整形の原稿（クーポンを切り取ったページ、大きな穴や切り抜きがある原稿など）をスキャンできます。

注：

- このオプションを利用できないモデルもあります。
- このオプションを使用すると、全体的なスループットが低下する場合があります。

[重送検知機能] のオプション

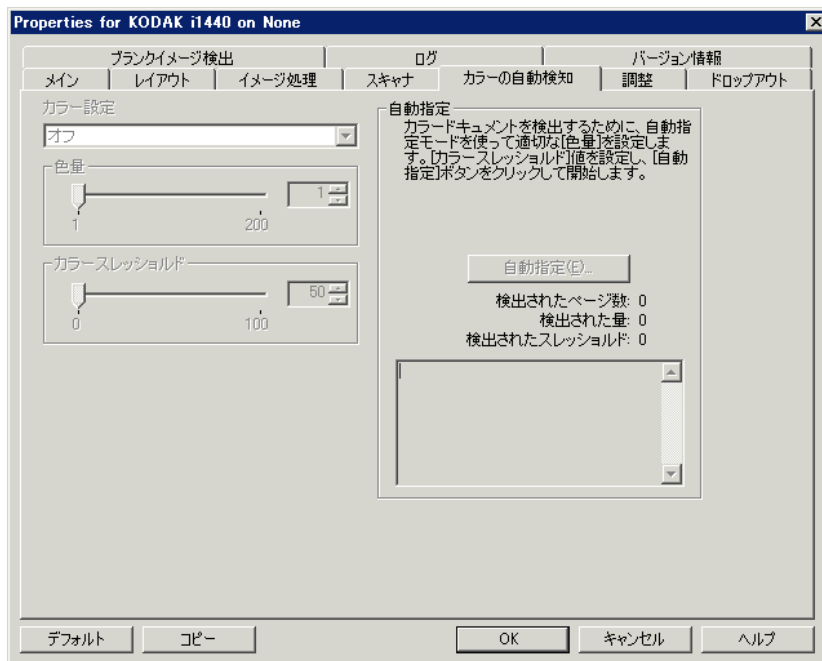
- **長さによる検知** — このオプションを有効または無効（デフォルト）にします。有効にした場合は、重送検知機能が無効になっているときにスキャンできる原稿の長さの最大値を設定します。同じサイズ of 原稿のスキャン時に重送を調べるため、長さ検出を使用します。たとえば、8.5 x 11 インチ (A4) の原稿を縦でスキャンする場合は、[最大長] フィールドに 11.25 インチ (28.57 cm) と入力します。最大 13.99 インチ (35.56 cm) までの値を指定できます。
- **自動セット** : 現在選択されている用紙サイズより 0.50 インチ (1.27 cm) 長い値を自動的に最大の長さとして設定します。

超音波検知機能 — 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度** — 搬送路に複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、どの程度まで検知するかを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。
 - **小** : 最も低いレベルの設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。
 - **中** : 厚さが異なる原稿や、ラベルを貼った原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
 - **大** : 最もレベルが高い設定で重送を検出します。この設定は、すべての原稿が 20 ポンドのボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に向いています。
- **動作** — 原稿の重送を検出した場合の動作を選択します。
 - **ビープ音を鳴らして続行** : このオプションを選択した場合、ビープ音を鳴らして重送を知らせます。ログに記録しますが、スキャンを続行します。
 - **ジョブの終了** : このオプションを選択した場合は、重送が検出されると、ログに記録され、フィーダと原稿搬送が停止します（スキャナーが無効になります）。
- **アラーム** — 重送検出時に PC の音源ファイルを再生する場合、このオプションを選択します。スピーカーアイコンをクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示されます。[開く] ダイアログボックスから、使用する .wav ファイルを選択し、[OK] をクリックします。

[カラーの自動検知] タブ

[カラーの自動検知] タブには、以下のオプションがあります。



カラー設定

- **オフ**：デフォルト設定です。
- **小**：カラー/グレースケールイメージとして保存するときに、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー/グレースケールイメージとして保存する前に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **大**：カラー/グレースケールイメージとして保存する前に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラーしきい値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム** : [**色量**] オプションまたは [**カラーズレッシュヨルド**] オプション (あるいはその両方) が有効になります。

注 : [**自動カラー検知**] の値を設定した場合は、まず [**中**] オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー / グレースケールとして返された場合は、[**高**] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー / グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、[**低**] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足いく結果が得られなかった場合は、[**カスタム**] オプションを選択して色量やカラーしきい値を調整してください。

色量 : スキャンイメージをカラー / グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。色量の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ~ 200 です。

カラーズレッシュヨルド : 色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合 (薄青と紺色の対比など) です。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は 0 ~ 100 です。

自動設定 — [**低**]、[**中**]、および [**高**] オプションで期待通りの結果が得られない場合は、[**自動設定**] オプションを使用します。

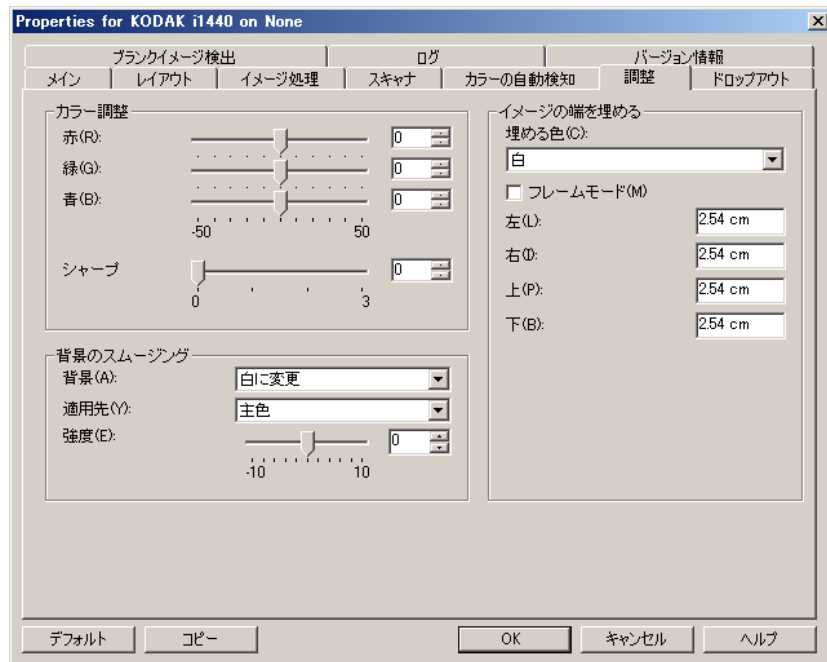
1. [**自動設定**] をクリックして、表示されるメッセージに従って作業を行います。
2. 入カトレイにサンプルのカラー原稿を 5 枚以上セットして、[**OK**] をクリックします。セットした原稿が分析され、推奨する色量が算出されます。
3. 表示された**色量**と**カラーズレッシュヨルド**の値をメモに書き留めます。この値をアプリケーションで使用します。

注 :

- これらの設定は、スキャンされたサンプルのカラー原稿に基づいて算出されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、[**カラーズレッシュヨルド**] の値を直接調整してください。
- 5 つの原稿のいずれかのスレッシュヨルド値が 0 の場合、ファンクションは正確に機能せず、不正なスレッシュヨルド値が戻されます。
- 自動設定モードは表面と裏面の両方で同時に適用することはできません。適用する面を選択する必要があります。

[調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



カラー調整

赤 — カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。

緑 — カラーイメージ中の緑のレベルを調整します。

青 — カラーイメージ中の青のレベルを調整します。

- スライダーを左右に移動するか、テキストボックスに値を直接入力、またはテキストボックスの上下矢印を使って、これらの設定値を調整することができます。

背景のスモーキング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色がより均一なイメージが生成されます。

- **背景**：以下のオプションからいずれかを選択します。
 - なし — 背景のスモーキングは行いません。
 - 自動 — 背景色を3色までスモーキングします。
 - 白に変換 — 3つまでの背景色を指定し、その各色を白にすることができます。

• **適用先 :**

- **メインの色** — 背景色のメインの色を白にします。
- **中間色** — 中間色を白にします。他の 2 つの背景色も均一なカラーにスムージングします。
- **全色** — 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで白にスムージングします。

注 : [適用先] オプションは、[方法 : 白に変換]。

- **強度 :** 強弱を調整して背景を決定できます。値の範囲は、[-10] から [10] です。デフォルト値は 0 です。

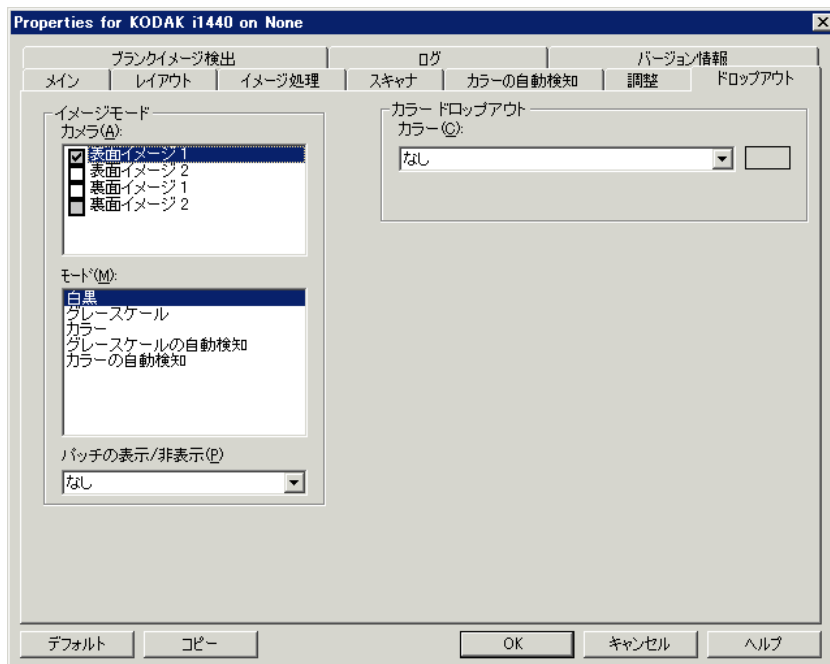
イメージの端を埋める — 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションは、他のイメージ処理オプションがすべて適用された後に適用されます。

フレームモード — [イメージ端埋め] オプションで選択された色と等しい量で、イメージのすべての辺を埋めます。または、[上]、[左]、[右]、[下] に値を指定して、スキャンしたイメージの各辺の埋める量を指定することもできます。

このオプションを使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

[ドロッパアウト]タブ

[ドロッパアウト]タブには、前述のイメージモードとモード情報に関するオプションがあります。詳細は、この章の前半にある「[ISIS ドライバ]タブ」の説明を参照してください。

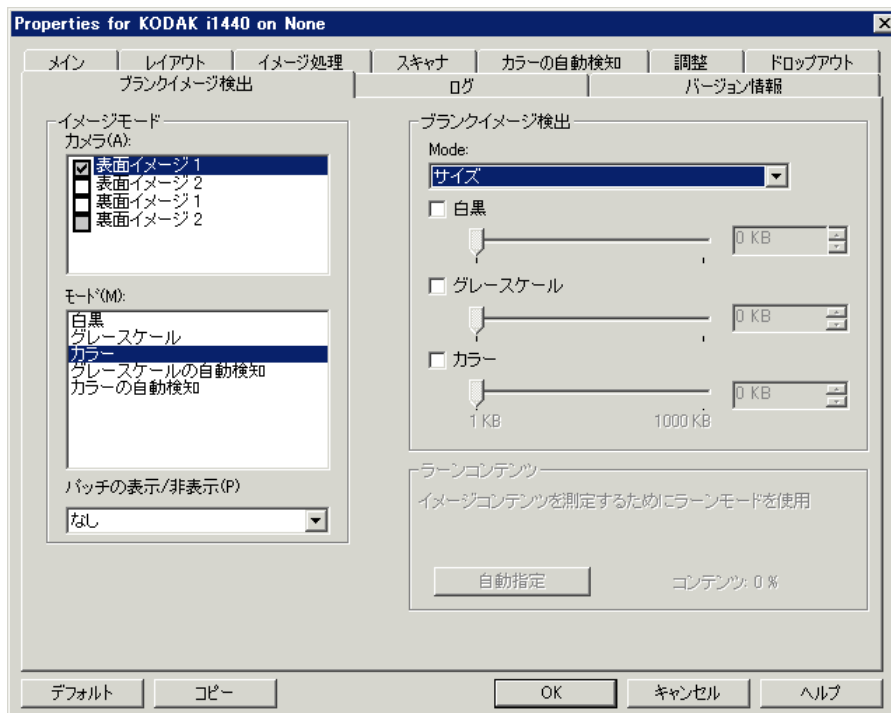


[ドロッパアウト]タブは、フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータが電子イメージに含まれません（フォームの罫線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールの原稿は、これらの設定に影響を受けます。

フォームに入力された色 — 黒または青のインク以外の色が、フォームに入力された日付に対して使用されたことを示します。

ブランクイメージ検出タブ

ブランクイメージ検出 - スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが空白と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類(白黒、グレースケール、カラー) ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。これらのフィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。



モード

- **[なし]**: すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **内容**: イメージ内のドキュメント内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。白黒、グレースケールまたはカラーを選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、**[0]** から **[100]** です。

[コンテンツサイズ]にはプレビューイメージのコンテンツ量が入力されます。サンプルの白紙ドキュメント(例: レターヘッド付きの白紙シート)がある場合、これは [コンテンツサイズ] の設定を決定する指標となります(つまり、プレビュースキャンを実行し、このボタンをクリックして、[コンテンツサイズ] を適切に調節します)。このオプションはプレビューイメージがある場合にのみ使用できません。

- **サイズ**: スキャンアプリケーションに送信されたイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます(他のすべての設定が適用された後)。

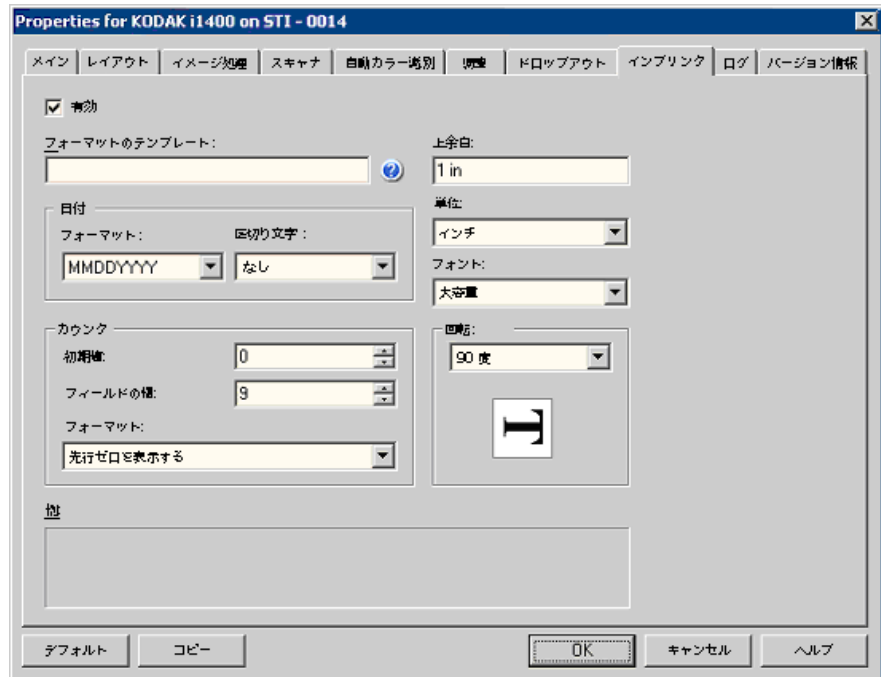
自動設定 — スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用するには、**自動設定**をクリックします。

注: 自動設定モードは表面と裏面の両方で同時に適用することはできません。適用する面を選択する必要があります。

[インプリンタ] タブ

プリンタは、スキャナーの最高速度で印字可能です。印字内容として、日付、時刻、カウンタ値、固定文字列を使用できます。

リテラル（静的）情報（バッチ名、オペレータなど、どの原稿に対しても同じになる情報）とダイナミック（動的）情報（ドキュメント順次カウンタなど、スキャンするページごとに異なる情報）の両方を入れるように設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。つまり、ソフトウェアによりユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。



有効 — クリックするとドキュメントプリンタ / 拡張プリンタは有効になります。

印字文字列の定義

フォーマットのテンプレート — フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列は原稿が搬送路を通過する際に印刷される文字です。印字文字列はスキャン前に原稿に印刷されるため、イメージの一部といえます。それぞれの印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

日付 — 印字文字列に日付を加えたい場合は、以下から形式を選択します。

- **形式** : MMDDYYYY、DDMMYYYY、または YYYYMMDD。
- **区切り文字** : 次のいずれかのセパレータを選択します。スラッシュ : /、ダッシュ : -、ドット : .、スペースまたはなし。例 : 08/24/2008、08-24-2008、08.24.2008、または 08 24 2008 または 08242008 (なし)。

カウンタ — 印字文字列にカウンタを加える場合は、以下のいずれかのオプションを入力できます。

- **初期値**：この値は、搬送に入る次の原稿の原稿カウントを割り当てるのに使用され、ホストから別の原稿カウントを受信しない限り、スキャナーによって連続的に値が増加されます。値は、イメージヘッダによって返されます。
- **フィールドの幅**：ドキュメントカウンタの幅を定義します。値は、1～9までの範囲です。
- **形式** - 幅の値がフィールド幅以下の場合、カウンタの形式を設定できます（例ではフィールド幅が3、カウンタが4です）。次のオプションを選択できます。
 - **リーディングゼロの表示**（デフォルト）：“004”
 - **リーディングゼロの削除**：“4”
 - **リーディングゼロの圧縮**：“4”

上余白 — 原稿の上端から印字文字列までの距離を定義します。テキストボックスに適切な値を入力します。

注：情報がすべて印字されていなくても、印字はドキュメントの後ろのエッジから 6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。

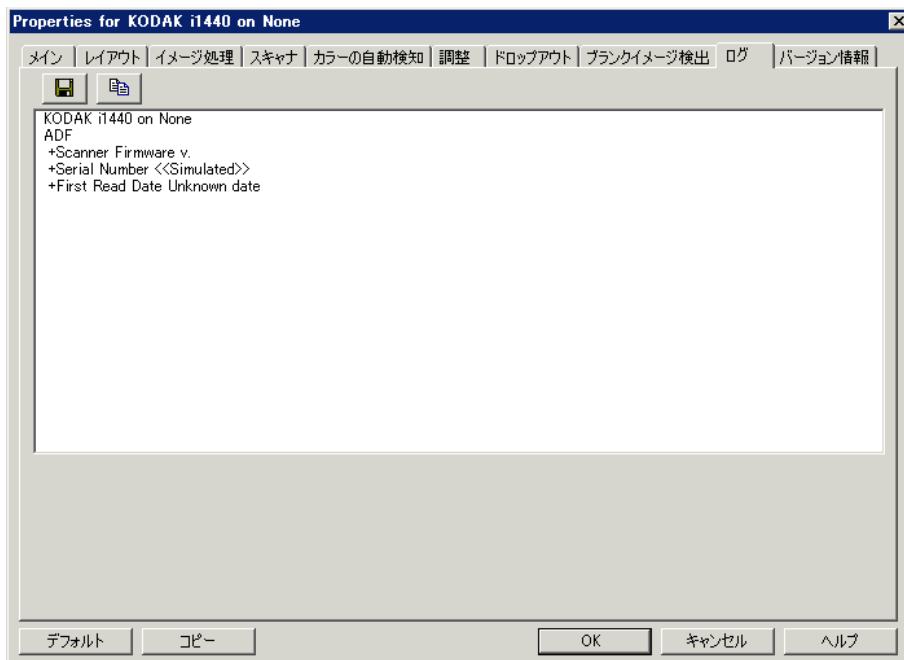
単位 — インチ、センチメートル または ピクセルのいずれかを選択します。

フォント — [通常]と[大]の2つの異なる文字スタイルを使用できます。

回転 — 0 または 90 度のいずれかを選択できます。

[ログ] タブ

[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



[保存] アイコンをクリックすることで保存したり、また、データをクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることもできます。

[バージョン情報] タブ

スキャナとドライバに関する情報が表示されます。



Kodak

コダック株式会社
ドキュメントイメージング営業本部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9
KDX 御茶ノ水ビル
© Kodak, 2010, All rights reserved.
TM: Kodak